

THE NEW FACE

西東京市で創業した
新企業を紹介!!

キッズスペースや授乳スペースも設置 子連れでもくつろげる美容室

ひばりヶ丘駅南口から徒歩約8分の場所にある hair salon Hare (ヘアサロン ハレ) / 石川貴重社長は、店内に子どもが遊べるキッズスペースや授乳スペースを備えた、子連れにはうれしい美容室だ。2人の子どもの持つ石川貴重社長と絢子夫人が「子連れのお客さまが周りに気兼ねなくくつろげる美容室を」と平成25年7月にオープンした。

石川社長は、立川や武蔵境にある美容室で10年以上修行を積み、かつて同じサロンで働いた同僚・絢子夫人と地元で独立開業の夢を果たした。内装は木の温もりがある家庭的な雰囲気仕上げた。5歳未満の子どもが座るかわいいクルマのカット椅子も用意。営業時間は10時〜19時で、時間外予約も可能。ドリンクサービスやDVD鑑賞サービスもあり、顧客一人一人との



石川社長(右)と絢子さん(左)

おもちゃもあるキッズスペース。右のクルマが子ども用カット椅子



本棚の絵柄の壁紙などが目を引くおしゃれな店内

企業 Data

hair salon Hare(ヘアサロン ハレ)

◆住所: 西東京市谷戸町2-10-2 TYビル1F
◆電話: 042-439-9044

ヘアサロンハレ 検索

地元住民に愛される定番のおいしさ 名物「栗どら」が西東京市みやげに大人気

「平成26年度西東京市一店逸品事業逸品グランプリ」のお持ち帰り部門でグランプリを受賞した「栗どら」(155円税込)。栗の形に焼いた皮の中に上品な甘さの餡(あん)と大粒栗がまるごと入ったどら焼きは、地元の名物として知られている。この「栗どら」を製造販売するのが、御菓子處吉乃(草木裕之助社長)だ。創業は昭和30年。約30年前から、どら焼きの製造を開始。当初は卸専門だったが、平成17年に新製品「栗どら」を自社工場内の店舗で発売。これを機に「虎の助」(抹茶・黒糖)、「あんずどら焼」と次々に開発。いずれも中餡には北海道産の小豆を使い、ほどよい甘さに練り上げ、外の皮はしっとりとして柔らかいのが特徴だ。10日ほど日持ちもするので、遠方への贈答品に使いやすいという点も、人気を集めている理由だ。



自慢の「栗どら」を手にする草木社長



工場にはできたての「栗どら」が並ぶ



右下から時計回りで「栗どら」「あんずどら焼」「虎の助(黒糖)」「虎の助(抹茶)」

品質管理には常に神経を使う。繁忙期の工場は朝3時からフル回転するが、製造機械の徹底洗浄は怠らない。毎年、食品分析センターでどら焼きの保存試験を受けている。「時代とともに求められる味は変化しています。今後も他にはない独自のどら焼きを作っていきたい」と草木社長。平成25年に西武柳沢駅南口に直営店をオープン。「ごま大福」「道明寺さくら餅」など季節のお菓子も扱っている。

企業 Data

有限会社吉乃

◆住所: 西東京市北町5-1-31
◆電話: 042-423-1541

御菓子處吉乃 検索

御菓子處吉乃 柳沢駅南口店

◆住所: 西東京市柳沢6-1-2
◆電話: 042-462-1980

◆定休日: 月曜・祝日

西東京市のちょっと気になるお店

天然物を使った刺身とだしが自慢! 洋館で本格日本料理を味わう

「新日本料理 るたん」(荒雅浩社長)は、ひばりヶ丘駅北口から徒歩5分に位置する中世イギリスの田舎町を思わせる洋館で、本格会席料理がリーズナブルな価格で楽しめる日本料理店。店内には木のカウンターに英国テイストのアンティーク家具や小物が並ぶ一方で、器は窯元より直接仕入れた手作りの「有田焼」を使うなど、意外な取り合わせで人気を集めている。新日本料理とは、日本伝統の味をベースにしなが、独自の発想を織り込んだ日本料理のこと。松花堂弁当の料理を洋食のコース風に有田焼の皿に盛りつけたランチコース(2000円)がおすすめ。前



店内で料理する荒社長は、生まれも育ちもひばりが丘

菜には毎朝地元の市場から仕入れる天然高級魚のお造りなどが付き、女性客からは、「料理はおいしく、お店の雰囲気もおしゃれ」と好評だ。料理のうまさの秘訣は「だし」にある。北海道の羅臼昆布とかつおをたっぷり使って濃い目にだし汁を取る。「都心に行かなくても地元で美味しい日本料理を味わえます。肩肘はらずに、食べた方がおいしい。タイムスリッパした感覚で時間を忘れ、く

1品ごとに手が込んだランチコース。ランチには「お子様膳」(1100円税込)も用意されている



企業 Data

新日本料理 るたん

◆住所: 西東京市ひばりが丘北1-5-13 サンスクエア 1F
◆電話: 042-423-9505(要予約)
◆営業: ランチ12時〜15時、ディナー18時〜22時
定休日: 水曜

るたん.com 検索

手作りの技術を今に伝える老舗靴工房 オリジナル・シューズはいかが

田無駅から徒歩15分。住宅街にある一軒家が紳士靴メーカー、有限会社小笠原シューズ(根岸貴之社長)の社屋だ。創業は昭和30年。高級ハンドメイド工房として、30代から70代の職人6人が老舗の技術を守っている。これまで百貨店や有名靴店向けのOEM製造を中心に行ってきたが、平成24年に3代目社長に就任した根岸貴之さんが、「もっとお客さまと直接向き合った靴作りがしたい」と新たに自社ブランド「シナンド」を設立。オリジナル・シューズの製造をスタートさせた。最高級のカスタムメイドは顧客の足型・足の採寸から始めて木型を作り、デザイン、製法まで細かく相談しながら製作する一点ものだ。いくつものデザインから好みの皮を選ぶ手頃なレイアウトは6万円から。どのタイプでも職人の卓越した技術が光る手製靴



工房で今も使っている昔ながらの足踏みミシン



さまざまな形がある靴のサンプル。ここから好みの型を選べる

企業 Data

有限会社小笠原シューズ

◆住所: 西東京市南町2-2-8
◆電話: 0424-61-6673

シナンド 検索



自身も毎日、工房で靴作りに動んでいる根岸社長

は、価格以上の高品質を誇り、ホームページを見た靴好きの顧客が全国から工房を訪れるという。高齢の職人が多く、技術の継承に悩みながらも、靴

作りを心から楽しんでいる根岸社長。「今後は気軽に履けるカジュアルシューズや婦人靴も作っていききたい」と意気込んでいる。